

【普通作物】の【低温】対策について

<9月>

農業経営支援課

【普通期水稻】（穂孕期・出穂期～登熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 最低気温が概ね17℃以下になると不稔等が生じる。
- ② 出穂後に低温が長期間続くと、登熟が不良となる。
- ③ いもち病が発生しやすくなる。

（2）事前対策

- ① 気温の低い山間地域では、出穂期や登熟期の気温を考慮し品種や移植時期を定める。
特に晩生種では十分な登熟期間を確保して、移植時期を定める。
- ② いもち病の防除を遅れないように行う。
- ③ 低温時はできるだけ深く湛水する。

（3）事後対策

- ① 登熟向上のため、収穫前迄間断かん水を続け根の活力維持を図る。
- ② 収穫時に水口等で未熟粒等が多発した場合は、刈分けし全体の品質低下を避ける。